

# まちの遊学人

ウィークエンドブランチと

## 第九を歌おう

藤井 三三さん (大倉)



藤井さんはこの原稿作成時に逝去されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

6年前、市民活動センターが開設したのを機に、市民有志が「市民活動センターを応援する会」を結成しました。さまざま活動を経て、現在の「春日部まちづくり応援団」に発展しました。

その応援団の活動の一として、今年3月に節目の50回を迎えたウィークエンドブランチは、「まちの活性化を願い、まちづくりに寄与したい」という目的をもって、ほぼ月一回のペースで週末の午前、お茶を飲みながら、地元で活動をしています。ちょっとしたいい話を聞いて刺激を受けてみませんか、という発想で企画し藤井さんが担当してきました。ゲストは春日部市民や、市にゆかりの深い人たちや、芸術関係者や経済人、環境保全活動やまちづくりに携わる人など多彩な顔ぶれが登場しました。藤井さんは「みんなよくしゃべる人たち。人と人とのつながり

が一番大切。これから新しい出会いが生まれれば」とブランチの広がりを感じ込みを見せていました。ゲスト探しは口コミで知ったメンバーからの推薦ですが、最近ではSNSで見つけて声をかけるケースもあります。50回続いたことについて藤井さんは「新しいことを知り、新しい人のつながりで輪が広がった。人が人を呼び、お酒を飲まない談話居酒屋風がよかったのではないかと話していました。」



藤井さんは音楽にも力を入れて活動していました。

「飲ぶの歌」で有名なベートーベン作曲の交響曲第九番「合唱付き」が、日本全国各地で演奏される年末の風物詩になっていますが、春日部市でも「市民の誰でも参加できる第九を」とかねてより多くの声があがっていました。

藤井さんもそれを願う一人で、つ

いに形になったのが、会長を務める春日部音楽振興会が主催となって立ち上げた「春日部で第九を歌おう」でした。

2014年12月の第1回講演が聴衆や参加者から好評で、次の年のふれあいキューブでの公演につながりました。一般公募などによる100名の合唱と、市民オーケストラや高校吹奏楽部合同による第九のために集められた特別オーケストラ、総勢170名の演奏で、立ち見が出るほどの盛りぶりでした。その中心で、会長として、また裏方として奮闘してくれていたのが藤井さんでした。

## よさこいソーランで絆を

刈川 悦子さん (内牧)



刈川さんは内牧地区を中心として活動している「よさこいソーラン」の代表です。メンバーは35名で年齢層は2歳から75歳。通常の活動として公民館文化祭、藤まつり、夏まつり等のイベントを埼玉県内各地で年20回程度、その他老人ホーム等ボランティアにも出演しています。

生まれは東京都墨田区で、春日部には昭和53年から住んでいます。元々は日本舞踊の踊り手からはじまり、よさこいソーランは15年になります。技量維持向上のために練習を週4日2時間続けています。

またチャリティー活動にも精力的です。庄和道の駅でよさこい応援団チャリティー演舞を東日本大震災から6年間、月に1回ペースで休みなく実施しています。これらチャリティーの募金は宮城県気仙沼市に届けられています。また6月には気仙沼市に行き、現地でチャリティーを行うなど極めて行動的な女性でもあります。

キューブに活動の多くを載せています。今後とも有意義な活動を継続していくため、特に若い人や子供さんの参加を期待しています。

